

伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク吟行記
伊勢海老と鮑に舌鼓

宮原亜砂美記

二〇一八年一〇月一四日と一五日、新幹線三島駅に集合して、貸し切りバスで西伊豆の吟行会でした。その記録と句集です。今回は、見学に時間を使うことと、句の推敲を大切にすると
いう趣旨で、現地での句会は行わず、後日郵便でやりとりする紙上句会としました。参加者は一八名、ガイドの佐野さん、ジオパーク専門員のに新名さんも後日句会のご参加くださいました。

(一日目)

楽寿園 JRの三島駅から徒歩一分で、とても便利なジオパークです。ジオパークの見所をジオサイトと呼びます。今から一万二千年前の富士山噴火の溶岩流の末端にあります。溶岩の上に根を張る植物たちの様子が観察できます。湧水の町三島を代表する場所で、源兵衛川も時間があればおすすめてです。

葦山反射炉 もともと下田にあった反射炉を、内陸の葦山に移設したものです。移設の理由は、米国に見つかりそうになったからということ。反射炉自体は珍しいものではないのですが、反射炉を建設した当時の葦山の代官、江川太郎左衛門が、特別にこれを大切にしていたので、よい状態で保存されているという事に意味があり、世界産業遺産になっています。

黄金崎 (別名・馬ロック) 馬そっくりに見える岩に、松の木が鬘が生えています。夕日に照らされて黄金色に輝きます。火山が作り出す豊富な温泉水によって岩石が変質したものです。晴れていれば背後に富士山が遠く見えて、絶景かな絶景かなということに。三島由紀夫の「獣の戯れ」にも描写されています。



仁科港にて、伊勢海老漁の刺網

浮島海岸 堂ヶ島と田子の間にある小さな入り江です。溶岩が擦れあってできたゴロ石（丸い石）の海岸があり、柱状節理が見られます。地元の人たちが日が沈むまでゆつくりとシユノーケリングを楽しんでいます。

仁科港から沢田公園、白岩山岩壁宿舎 仁科港には

今季解禁になった伊勢海老漁の船が停泊していました。刺網は西伊豆ならではの、丸い石を使った錘が特徴です。

そこから海に向かうと駿河湾に夕日が沈むタイムミングで、海底火山の噴火の火山灰層からなる沢田公園へ行きました。雲が多く、されど夕焼けという景色の、遠く対岸は静岡市です。

帰り道に、海底火山灰層に掘り込まれた洞窟の中に、七休もの仏像が線彫で描かれている白岩山岩壁窟画に立ち寄りました。室町時代のもので推定されているようで、自然と人間文化の関わり方を感じることが出来ました。

松崎「御宿しんしま」 この吟行で宿泊して伊勢海老を食べた宿です。この宿の主人佐野勇人さんが、積極的にジオパーク活動を進めている名ガイドの一人であり、また、彼は旅行会社を持っており、西伊豆では不可欠なバスの旅を総合的に設計してくれるので頼りになります。

松崎ナイトツアー 御馳走で重たくなったお腹を抱え、名ガイド佐野さんに連れられて松崎町の夜の町をそぞろ歩き。ノスタルジックな橋の欄干、一三時のある時計台、なまこ壁、下伊那神社、長八美術館にある外尾悦郎の彫刻（その場所で彫っていたそうです！）を巡る、盛りだくさんの一時間半。

（二日目）

龍宮窟 下田の町から少し南に。海底火山の地層が波と風に浸食され芸術的な地形を作りだしました。少し前までは船着き場としても利用されていました。

ある場所からみるとハート型に見えることから、恋愛成就のパワースポットになったとか。科学的根拠のないことの方が人は興味があるのかも。その洞窟の脇に自然のサンドスキーが楽しめる砂丘があったり、白浜には溶岩の面白い石があったりと童心に返りました。

ペリーロードと了仙寺 ペリーが下田に上陸し、三〇〇人の部下を引き連れて了仙寺まで、

四〇〇メートルを進行しました。どんな気持ちでなまこ壁の街並みを歩いたのか浪漫を感じる道でした。

了仙寺は季節はずれのアメリカジャスミンがとても芳醇な香りで二輪ほど咲いていました。咲き乱れる頃にまた訪れたいです。

白浜海岸と白濱神社 白浜海岸を取り囲む白い崖は、伊豆



白浜海岸の地層を見る。

が半島になる前の海底火山時代に海底に積もった火山灰や軽石の地層です。岩場の一部は白濱神社の神域です。

そこへ、ジオ菓子旅行団の鈴木さんが商品のジオ菓子を車で運んでくれて、いいお土産を買うことができました。

白濱神社は、知らないと言通りしてしまふ、ひっそりとした神社ですが、一步踏み入れると、二四〇〇年以上の歴史と樹齢二〇〇〇年の巨木があり神秘的な雰囲気があります。天然記念物の梧桐も見ることができました。伊古奈比咩命を中心に四つの神様が祀られています。神社の裏の白浜には、巨石の上に鳥居がありそこに上り海上に浮かぶ伊豆七島を臨むことができます。ここは外せない伊豆半島のジオサイトです。

河津七滝 有名なループ橋をぐるぐる行く手前に、七滝の入り口があります。釜滝、エビ滝、蛇滝、初景滝、カニ滝、出合滝、大滝と並びます。覚えてたての柱状節理の上を勢いよく流れていく水が音とともに気持ちよい滝でした。

滝を巡る遊歩道には色々な仕掛けがあり、なかなか先に進みませんでした。途中で主宰は椎の実を見つけて拾い始めました。生のままでも美味しいという説明に拾い始める人も。

東京ラスク工場 おまけです。伊豆なのになぜ東京ラスク？ 伊豆老舗の飴屋さんの息子さんが東京で成功。故郷伊豆に錦を飾るためにここに建設したとか。伊豆ならではのラスクも少しあり。今回お土産買う時間がほとんどなかった方で、多くの方が伊豆土産の東京ラスクを購入してお土産ができました(笑)。

三島駅着一六時過ぎ。再会を約して解散しました。

伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク吟行句

互選高得点句

七点句 反射炉のすつくと高し秋桜

城島千鶴

墨絵よりうすき島影秋惜しむ

羽鳥正子

六点句 溶岩を覆ふ走り根初もみぢ

余米重則

五点句 溶岩に模した菓子買ふ秋の旅

遠藤長代

四点句 待ち合せたがふて秋の潮にのる

益子桂子

本枯節守り百年櫛紅葉

尾池和夫

秋風や夜目にも著き海鼠壁

佐藤美智子

秋の夜にぼんやり浮かぶなまこ壁

宮原亜砂美

縦横に柱状節理秋の海

青井律子

満月は大蛇のまなこ櫛紅葉

尾池和夫

小鳥来る溶岩流の皺に苔

尾池葉子

富士溶岩なだれし道や木の実降る

宮澤淑子

伊豆半島西へ傾き秋夕焼

尾池和夫

海鼠壁白き格子と虫の闇

大石高典

三点句

その他

刺網に丸き重石や秋入日	宮澤淑子
波音に龍宮窟や空高し	城島千鶴
海鼠壁たどり秋夜の散歩かな	益子桂子
伊豆の宿馳走のメは今年米	重富國宏
しいのみをあつめ頬張る旅の空	佐野勇人
堂ヶ島夕焼に映える縞模様	鈴木伸二
雨上がり空を見上げて初紅葉	高橋真一朗
肌寒しポットホールで丸くなる	新名阿津
色変へぬ松の忍耐地を這ふ根	西川慶
茅の穂とならび反射炉競ひあふ	丹羽康夫
伊豆のへそ落鮎の川城山の岩	原田久仁一
もみぢ葉は沈む夕日を映したり	水庭智果



世コスネユ島半伊豆
銘葉のパークジオ
菓子（ジオ菓子
製造販売）
旅行団

参考文献として、京都新聞の記事から尾池和夫「天眼・ジオパークの吟行」の冒頭部分です。

「本州から太平洋に注ぎ込む川は多いが、北へ流れる川は、伊豆半島の狩野川だけである。伊豆半島に聳える天城の山々から、湧水や滝や溪谷などの景観を持つ三二本の支流を束ね、富士に向かって北へ五〇キロ流れて駿河湾に注ぎ込む。流域面積は、八五二平方キロの一級河川で、流域は、沼津市、三島市、裾野市、御殿場市、伊豆の国市、伊豆市、清水町、函南町、長泉町の六市三町である。」